

## 中学にデイサービスなど併設

# 複合施設「京都御池創生館」

# 人・まちづくりの拠点に

次々とさまざまな改革を打ち出して、「公教育のモデル都市」と評されることもある京都市に、また新たなモデルが加わった。中学に保育所や老人デイサービスセンターなどを併設した全国でも例のない複合施設である。表通りに面した1階にはレストランやカフェなど商業施設が入り、養護学校で学ぶ生徒の職場体験の場ともなる。京都市教委は「人づくり・まちづくりのモデル的拠点施設」と位置づけている。

(橋本誠司)

## 地域ぐるみで構想

市役所に近い中心部にある京都御池中学校・複合施設「京都御池創生館」で、地上7階、地下1階延べ約2万平方メートル。4月から1階は保育所(定員90人)とデイサービス

ンター、地域包括支援センター、1、2、4階が中学(生徒数約4000人の教室になる。5、7階は体育館、小中一貫教育のためのスペース、市の執務室などに使う。1階の御池通

側にはイタリアンレストラン、カフェなど3店舗が入る。出入り口はそれぞれ別で、ビル全体に緊急警報通報システムを備えるなど、安全面も配慮している。

京都御池中は3中学が統合され、2003年に開校した。新校舎建設に当たっては、民間資金を活用する「PFI手法」を導入し、事業費は約63億円、従来の手法より3割、約27億円少なくて済んだ。

市教委は御所南小、高倉小との小中一貫教育を実施するため特区認定を申請。算数と数学を9年間通したカリキュラムにしたり、論理的読解力に関する新科目をつくって小学1年から中学3年まで教えるようにしたりする計画だ。

また、1階の商業施設では、経営する企業と連携し、市内の総合養護学校に通う生徒が一定期間、働きながら学ぶことができるようにする。

こうした地域ぐるみでの改革は京都市の伝統だといわれ、門川大作教育長は「教師力、人間力、地域力を高めるというのが改革のキーワードで、その集大成の一つが京都御池中の統合だ。地域の教育力が低下したといわれるが、嘆いたり批判したりしていても始まらない。地域のみならず語り合っているうちに複合施設の構想がまとまったが、これは現代の町衆の力だと思う」と話している。

## 各学校の裁量を拡大

京都市はこれまで、さまざまな教育改革に取り組んできた。

京都市の改革で特徴的なのは学校の選択や校長裁量の余地を拡大することだ。

取り入れられたことが全体に広がった例もある。2学期制の導入や年間授業日数の拡充で、2学期制の実施率は小学校で99%、中学校で57%だったが、新年度から小・中とも全校で実施される。年間授業日数は205日を選ぶ学校が増えた結果、これが新たな最低基準となった。全国最多で、夏休みは全国平均より1週間ほど短いという。

市立堀川高校が国立公立大学の現役合格者を3年間で6人から135人にまで増やし、「堀川の奇跡」と呼ばれたことは広く知られているが、2003年から、外部評価を含めた「学校評価システム」を政令指定都市で初めてすべての学校・幼稚園で実施するなど、地味な取り組みも着実に進めている。

市立堀川高校が国立公立大学の現役合格者を3年間で6人から135人にまで増やし、「堀川の奇跡」と呼ばれたことは広く知られているが、2003年から、外部評価を含めた「学校評価システム」を政令指定都市で初めてすべての学校・幼稚園で実施するなど、地味な取り組みも着実に進めている。

教師養成にも力を入れていく。今年9月には教師になるうとする大学生や社会人のため「京都教師塾」を創設するほか、07年4月には市立塔南高校に「教育学科」(仮称)を設置、将来のスーパーティーチャーを育てることにしている。



# 教育



ルネサンス 月曜版